

世相を映し川は流れる

「真光寺川を清流にする会」
世話人：山口 拓郎

殺伐とした世相である。殺人、強盗、窃盗、ひったくり等々・・・
世相を映すニュースの氾濫にいつか一驚かなくなってしまう。自分には無縁な世界の出来事と心の何処かで高をくくっていた節がある。此処3カ月ばかりを振り返って見ると真光寺川といえども決して世相と無縁ではありえないことを痛いほど思い知らされた。しかし川は今日もおだやかに流れている。世相を映しすべてを受け入れ淡々と動ずるところがない。

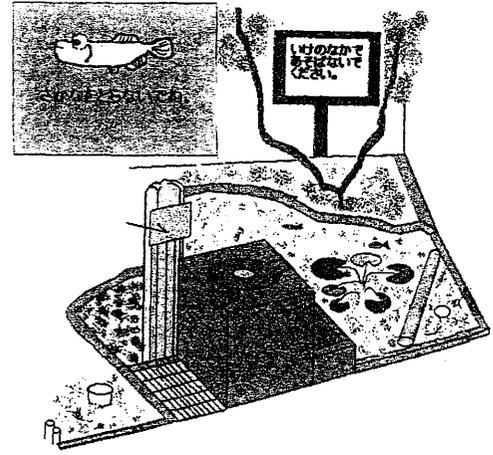
8月9日一めだかを頂く

和光鶴川小の小菅昇平先生から由緒正しい「鶴見川系のめだか」を頂戴した。
それには次ぎのような経緯があつた・・・
能ヶ谷会館に奉仕活動で池ができた。「めだか池」と名づけられた。里親の会の「めだか基金ポスト」に困んだ命名である。めだかを飼いたい、当然のこととして皆がそう思った。早速インターネットで調査しEメールで意見が交わされた。種類が多く、大半は雑種であることが判った。
会員の高木正俊さんから高橋さんへ耳よりな話がある。「小菅先生が由緒正しいめだかを飼っていらっしやる」そしてご紹介頂く。小池先生は和光世田谷小時代、多摩川で児童の課外活動を指導された方である。児童が多摩川に親しみやがて父兄も夢中になつていく様が著書「多摩川がかわいそう」に感動的に記されている。
夏休みでひとけのない学園へ高橋、五條さんと伺う。校舎の裏手に大きな水槽があり水藻の間を泳ぎ廻っている。網で20匹ばかり掬い揚げて下さる。五條さんが自転車で大急ぎで持ち帰り池に放つ。
後日、小菅先生も清流会に加入して下さい。

8月15日一谷戸の点描写真展オープン
薬師池のフォトサロンで高橋さんの写真作品展「町田の自然一谷戸山点描」の初日。
谷戸のただずまい、そして花々。光と影が織りなす彩りが美しい。真光寺川の自然も。会員の山本さん夫妻、二田さん等も見える。

8月16日一細菌検査のサンプル水採集
開戸親水、下堰橋親水、元真光寺駐在所裏で採集。11時から1時間半、約6キロ。真夏の太陽は容赦ない。汗まみれになって約束の若草公園へ。約束の時間より15分も早く松前さんは見えている。研究所で分析して頂ける。

8月19日一8月度例会
前日までの雨が上がり嘘のような青空。暑い。9時半開戸親水に集合。20余名。鶴三小の三少年、大川先生親子それに新会員両角さんも。定点観測後、3班に分かれ開戸親水一神明橋間2Kmの清掃作業を展開。収穫は自転車1台、鉄材、家電、ゴミ20袋。思いがけない事件に出くわすことになる。神明橋下に2個、平成橋下に1個、能ヶ谷橋下に1個の手提げカバンを発見する。神明橋下の2個は花模様製の30cm位のズック製と20cm位の茶の皮製のもの。泥にまみれたハスナーを開くと拳大の石数個、その下から4個の財布とドル入れが出てくる。ドル入れの1個には10数枚のカード、他の方にも数枚のカードが。キャッシュは見当たらない。



鈴木 聡さん力作のコンピュータ・グラフィックによるイラスト

ただ事ではないと直感し最寄りの真光寺駐在所へ届ける。現場の状況を詳しく聞かれる。

夕方、警官が書類を持参される。拾得物放棄の手続きらしい。5名の持主の名前が判明し内3名からはひったくりの被害届けが出されていたそう。犯行現場は田園都市線沿線方面とのこと。

警官からの注意。
こういう場合現状を損なわず直ちに110番へ通報してもらいたい。警官が現場に赴き状況写真を撮影記録に残す。「起訴された際、現場の状況把握が不正確であると証拠不十分で判決がひっくり返ることがあるのです」
ことの重大さにびくりする。

平和な別天地と考えていた真光寺川も世相から決して無縁ではありえないことを改めて痛感した。むしろ世相を映す鏡かも知れない。

カバンを投ずる犯人の影を川はしかと映したに違いない。だが清も濁もわけへだてなく受け入れ淡々と流れ続けている。

9月9日一9月例会

9月9日一9月例会
前日、台風15号の接近が報ぜられる。高橋さんと連絡を取合い中止の際の連絡手段を打ち合す。未明雲の流れはいよいよ急でテレビはしきりに警戒を促す。8時過ぎザツとくる。これまでと一旦は中止を決定する。ところが程なく厚い雲間から青空が覗く。決定を翻し決行となる。流石に10人余りといつもよりは少ない。酒井さんが新に加入。水嵩も増えているので区間を短縮し「開戸親水一下堰橋親水」間とする。
終えて例によって能ヶ谷・いこい会館で反省会。前月、笠井さんから「行動基準」を設けることを提案され起草して下さい。
「里親ポスト」の設置により我々の主旨に賛同され加入を希望される方々が増えてきた。大歓迎である。真光寺川に対する思いが繋がりがあくまで開かれた会でありたい。一方、自由闊達に行動して行くために指針がほしい。皆がそう感じていた。草案にもとずき活発に意見が交わされる。
簡明で格調高いすばらしい「行動基準」ができあがった。

9月13日一細菌調査のサンプル採取
例月の如く3箇所採取、松前さんをお願いする。

「真光寺川を清流にする会」行動規範

真光寺川はかつて小瀬が泳ぎ蟹が舞う谷戸の清流でした。私たちは真光寺川に清流をよみがえらせ、鳥や魚、虫や昆虫が喜び、子供たちの楽しい遊び場になることを願って「真光寺川を清流にする会」をつくり活動をしていきます。
私たちは真光寺川をより美しく楽しむ川にするために、自分たちそれぞれが出来る範囲で、地方の暗黒を露出する勇気を持ったボランティアグループです。謙虚な気持ちで、真光寺川をより美しく自然と向き合い、この川の歴史を築いてきた地元の方々の知恵を借りながら、地域にしっかりと根をのこした活動を目指してまいります。
また、私たちは活動を通して特定の政党、宗派、商業主義的な考え方に偏ることなく、純粋さと透明性を失わないことを主張します。

このような考え方に基づき、私たちは次の行動規範を定めました。

行動基準

- 1. 私たちの活動は、地元や地域の人たちに支持されているか。
- 2. 私たちの活動は、自然に対して謙虚であるか。
- 3. 私たちの活動は、誰にも解るように説明されているか。

2001年9月制定

- 【具体的には】
- 1) 小さな親切、大きな迷惑で私たちが強りよがり(独断的)にならないよう、周囲に対する自覚、気配りが大切ですよ。
 - 2) 自然のままが原則です。生態系を壊さないことは当然として、人間の健康や環境を妨げない。先住者は川に棲む動物や植物たちで、彼らこそが地元の先住民なのです。
 - 3) 活動の透明性を心がけます。企業でいう説明責任(accountability)です。活動を事前に子供でも理解できる言葉で、オープンな体制を心がけねばなりません。

9月21日一内水面試験場見学
正式には神奈川県水産総合研究所・内水面試験場という。所在は相模川沿い相模線上溝駅に程近い場所である。淡水魚の養殖と環境保全を研究している。「内水面」とは「外水面一海洋」に対し陸地に閉ざれた湖沼・河川を指す法律用語だそうだ。
小菅先生から頂いた由緒正しい血統のめだかのルーツがこの試験場に生存する。高橋さんが下見をし専門研究員に案内と解説を依頼して下さい。
小川さん、山本さんが用意した車に分乗して出かける。同勢8名。
広い敷地に数多くの池と疑似溪流が点在する。構内にはブラット水槽が設置され壮観である。
めだか・なまず・たなご・どじょう・あゆ・かじか・うなぎ等々。
絶滅に瀕している淡水魚も飼育されている。いざ、れ蘇らせたいという意図らしい。
あゆを養殖する有効な手段の研究等々。
めだかは南方系で高温には強いこと、20-25度になると産卵すること、また多摩川系・鶴見川系相模川系等種類が多いこと等収穫は多い。
何れも魚には一家言ある面々、広い敷地、構内を案内され時が経つのも忘れ専門研究員の説明に熱心に聞かされていた。
終わって川沿いの「自然の村」で土地の名物そばに舌鼓を打った。

10月-鶴三小の課外実習

10月6日-鶴三小課外実習

横山先生から7月の成果を踏まえ2度目を実施したいとご相談があった。上流域と決まる。
9時調整池に集合。横山先生、児童35名、父兄4名。小川、笠井、五條、山口、山本さん対応。
・山本さんから「池の鳥の種類と生態」を説明
・測量中の後藤技師より公園の構想を説明
・神明橋で調整池からの暗渠と下流の風景観察
・「せせらぎの小径」予定地を経て鶴川台へ
・駐在所裏の川沿いの畦道で自由行動
流れに魚の影がちらつく
・稲の刈り入れ作業中の安藤さんが昔の魚の話子供達を最も興奮させたのは”いなご”と”かまきり”の死闘だったようだ。厳粛な自然の摂理。12時に終了、児童の爽やかな笑顔が嬉しい。
後日、感想文が届けられた。

10月7日-町田ごみフェスタ2001

快晴、2万の来場者で終日賑合う。
エコネットは「川のクリーン作戦状況」を出展。
真光寺部会としてコーナーを設けてもらう。
笠井さん、山本さんが対応。

10月12日-細菌調査のサンプル水採集

例月の如く3箇所て採集。途中大量のごみを拾う

10月13日-「めだか基金ポスト」撤去

高橋さんから開戸親水のポストが7.11.13日と連続して破られたとの通報。
やむなく撤去することにする。

10月14日-鶴見川クリーン作戦

鶴見川流域で一斉に開催される。下川戸橋ポイントに竹内、山本さんと参加。
多くのボーイスカウト、市民団体が元気に作業を展開しみるみるきれいになっていく。
2時間で作業を完了。
鶴見川はここ数ヶ月透明度を増し清流に近い。
”何故ワースト3なのか?”信じられない。

10月21日-10月度例会

定点観測後3班に分かれて清掃作業をする。
スーパーサンワの脇の辺り、特にごみが目立つたので重点的に行う。小学生が2人、手伝ってくれる。一生懸命拾ってくれる。聞けば鶴四小の児童とのこと。”反省会に来ないかい”と誘う。散々

迷った末家に断ってこなかつたからと帰っていく。

反省会は例によって色々賑やかである。
「めだか基金ポスト」については議論が白熱した。心ない輩の妨害はあるかもしれないがコミュニケーション上必要なので引き続き設置したいという結論になった。
来月の例会”少々冷たいかもしれないがやはり清掃作業をやりましょう!”何とも頼もしい「清流会魂」の面々である。

10月28日-境川クリーン作戦

豪雨をものかはずぶぬれになりながら決行された。数多くの少年少女、市民団体が元気に作業。全く頭が下がる思いだ。山本さんと参加、エコネットとしては8名参加した。

11月

記録的な酷暑の夏であった。
季節は移り初冬を迎えている。川辺の風景を見る限りさほど変化があるようには思えない。しかし1年前を思い起こすと驚くべき変貌を遂げている。
のどかな田園風景は最早面影もない。
冬籠りの季節である。鳥達も日溜まりに群れていることが多い。
水に入れないこの時期どう過ごし、何を蓄積していくか。そんなことを話合っている。

